

第三部 環境問題に関する広い、感想と意見(皆様の投稿、参画を歓迎します)

1) 実質 CO2 排出量ゼロ宣言の課題

2020年9月新たに発足した菅内閣はある意味突然に2050年までに実質CO2排出量をゼロにすると宣言をした。まあ、宣言だから様子を見るのがいいのであろうが、本気で考えるとかなり大変な宣言であると思われる。すでに、実質CO2排出ゼロの意味、難しさは第1部において論じているが、改めて考えてみると、本当に大変なことがすぐにわかる。

これまで、日本政府の弱腰を批判し、CO2対策不十分さを批判してきた環境派NPOやジャーナリズムも瞬間的には、直接的な批判もできず、協力を申し出るでもなくある意味で、虚を突かれたと考えるのが現実であろう。一つのポイントは、原子力発電に対する評価である。現在のところ、政府も原子力に関してはコメントしていないが、環境派のNPOにとっては最も大きな論点となると考えられる。

筆者も放射性廃棄物の最終処分の問題を考えれば、原子力利用への危惧を持つものであるが、世界中を見ると、中国、ロシア等の国々では原子力への依存度を高めていくことが計画されていることは気になるところである。技術の進歩の中で、後れを取る可能性も心配される場所であるし、日本が脱原発を果たす中で、近くの方が原発を積極的に建設しているのを見ているだけなのもどうかと思うのである。

環境NPOも脱原発でCO2排出削減を言うのなら、具体的に対案を提示することが必要となるのではないかと考えるものである。第一部で論じた、8分目3乗半減化計画を基として、GDPを増大させながら、CO2を削減する計画を立てる必要性を改めて考えるところである。

関心のある方のご協力を頂ければ、詳細な計画を詰めていきたいと思うところである。

(松尾 友矩)